

東京都立図書館協議会 第28期第7回定例会議事録

平成31年3月18日（月）

都立中央図書館4階 第2・3研修室

午後2時57分～午後3時42分

出席者名簿

委員

笹のぶえ委員 森富子委員
豊岡弘敏委員 古川正之委員
内田剛史委員 小田光弘委員
川原田康子委員 坂口雅樹委員
富澤良子委員 中井孝幸委員
松本直樹委員

(欠席者)

豊岡弘敏委員
鎌倉幸子委員

都立図書館幹部職員

中央図書館長 管理部長 サービス部長
多摩図書館長 企画経営課長
総務課長 資料管理課長 情報サービス課長
地域教育支援部長 地域教育支援部管理課長

事務局

企画経営課統括課長代理 企画経営課課長代理
企画経営課企画経営総括担当

配布資料

- 資料1 「これからの都立図書館に必要な利用環境について ―多様な学びや活動を支える機能― (提言案)」
資料2 第6階定例会発言要旨
資料3 修正箇所一覧

第28期東京都立図書館協議会委員名簿

東京都立図書館幹部職員等名簿

座席表

参考資料集

東京都立図書館協議会第28期第7回定例会

平成31年3月18日（月）

午後2時57分開会

【小田議長】 皆様、こんにちは。少し時間が早いようではございますけれども、始めたいと思います。年度末のお忙しいところをお集まりいただき、ありがとうございます。今期、第28期の協議会の定例会ですけれども、今日が最後ということをご予定しております。第7回となります。よろしくお願いいたします。

それでは、まず、事務局から配布資料等の説明をお願いいたします。

【企画経営課長】 それでは、資料の確認からさせていただきたいと思います。お手元に、第7回の定例会次第という1枚のもので、配布資料が下のところに書いてございますけれども、こちらもご覧になりながらお願いいたします。

配布資料は、1つ目として、「これからの都立図書館に必要な利用環境について」ということで、これからお諮りいただく提言案をまとめたものとしてご用意しております。

2つ目が「第6回定例会発言要旨」で、両面になっておりますが、A4の1枚のもの、資料2でございます。

資料3が「修正箇所一覧」で、前回の定例会でのご意見等を受けまして修正したものの一覧表、片面1枚でございます。

その他の配布物としましては、委員の名簿、職員の名簿、座席表、それから参考資料集ということで、バインダーで綴られているものをお席にご用意しております。

それから、私どものイベントのチラシを最後に1つだけ、つけさせていただいております。

資料に不足等はないでしょうか。ありがとうございます。

本日は、ご都合により豊岡委員と鎌倉委員のお2人がご欠席でございます。定足数を満たしておりますので、会は成立をしておりますので、よろしくお願いいたします。

次に、この会の情報公開についてご説明申し上げます。

当協議会におきましては、会議は原則として公開としております。会議の内容は委員のお名前を付して議事録を作成し、都立図書館のホームページ等により公開をさせていただきます。

本日、傍聴者はありません。それでは、よろしくお願いいたします。

【小田議長】 それでは、早速、次第に従いまして議事に入っておりますけれども、今日は最終回ということもありますので、進行につきまして確認があります。事務局からお願いいたします。

【企画経営課長】 では、本日の次第についてご説明をさせていただきます。

まず最初に、提言案につきまして、第6回の定例会からの修正箇所についてご確認をいただき、確定いただきたいと思います。その後、議長から館長に提言を手渡していただくというのが本日の流れでございます。

また、本日、最終回ということでございますので、委員の皆様から一言ずつご挨拶を頂戴したいと思っております。

事務局からの説明は以上でございます。

【小田議長】 それでは、お手元にあります提言案、それから、今事務局からありましたように、「修正箇所一覧」をご覧ください、松本さんからお願いいたします。

【松本副議長】 では、私のほうから修正した箇所について説明をさせていただきます。

基本的には「第6回定例会発言要旨」を見ていただきまして、必要に応じて「修正箇所一覧」、提言案をご覧くださいと思います。

では、この発言要旨の一番上のほうから、第6回以降、皆様にいただいたご意見をもとに修正した箇所を説明させていただきたいと思います。

まず最初に小田議長から、「提言」という言葉が章のタイトルの後にあるけれども、これは不要ではないかというご指摘がありました。ごもっともだと思いますので、その「(提言)」という括弧の言葉は削除いたしました。

続いて別表が本文の一番最後のところに表になっているのですが、そこが「検討事項一覧」という見出しになっておりました。これだと、これから全ての項目を検討するような印象を与えてしまうのではというご指摘を小田議長からいただきました。これについて「取組事項一覧」と、少し広い名称に変えました。

続いて中井委員から、高齢者を対象としたサービスについてもう少し書いてはどうか、あるいは近畿大学アカデミックシアターを見学した際、学生が漫画を非常によく利用していたというご発言がありました。それを受けて私のほうで、外国人などは比較的ビジュアルの要素の強い資料を好むのではないかという発言をいたしました。その後小田議長から、新たに議論するのはなかなか難しいので、そういったことに関してはこれまで出された課題も含めて、一番最後の部分に載せてはどうかというご指摘がありました。「修正箇所

一覧」の項目12になります。文章は全て読みませんが、この協議会で出されてきた課題も含めて、災害時の公共施設としての役割、高齢者、若年層へのサービスといったことについて言及するという形で修正をしたいということでございます。

続いて古川委員から、4階企画展示室で展示をご覧になられて、これをもう少し下の階でわかりやすく利用者に案内をしてはどうかというご指摘がありました。これについては、提言案の11ページ、第Ⅱ章の2の(3)のアというところですが、ちょうどアの真ん中あたりに、「多くの利用者が目にしやすい場所(1階等)に案内を出す」という文言があるので、もしこれでよければこのような形で進めさせていただきたいということでございます。

また、古川委員から、オリンピック・パラリンピックの教育ということで、レガシーについてどういった取組があるのかという発言がございました。これについては企画経営課長から説明がありまして、事業として考えているという発言がございましたので、小田議長からそれを一層進めていただきたいという意思をこの協議会として確認することでどうかという発言がありましたので、特に本文のほうには反映はしておりません。

それから、坂口委員からICTの利用について、図書館のサービスと無関係な利用に対する考え方についての発言がありました。そういう利用者は実際にいると思うのですが、そうした利用者についても、利用者を包含していくような考え方、もっとポジティブな考え方で提言案を書いてはどうかという発言があったかと思います。裏面へ行っていただきまして、私の発言は飛ばしますが、小田議長からもそういった利用についても何かプラスの取組をするような方向性がよいのではないかと。中井委員からも彼らをつかまえる努力をしないといけないという発言がありましたので、そういったことの全体を受けまして、修正箇所の4番のところですが、都立図書館のサービスや情報資源の利用に結びつくような取組をしようという形で本文を修正したいということでございます。

それから、内田委員から、「ウィキペディアーツ」に注釈をつけたほうがよいのではないかとご指摘がありました。提言案の12ページをご覧いただきたいと思いますが、上のほうに「ウィキペディアーツ」という言葉が3行目にあるかと思います。その後に「前者は」という形で一応説明がありますので、これでもしよろしければこのような形で進めさせていただきたいということです。

それから、川原田委員から長時間利用者について、機能的なことが書かれているのだけれども、もっと居心地がよいということが伝わるような表現がよろしいのではないかと

うご指摘がありました。それを受けまして、「修正箇所一覧」の項番の2番目ですけれども、従来は「椅子、机等の各種什器の導入に際しては」と、かなり物についての文言ではありましたが、それを「利用者にとって居心地が良いと感じられる空間にする工夫も求められる」ということで、もう少し空間面、空間をどうつくっていくかという表現に変えております。

続いて、こちらも川原田委員からですけれども、「人に届くウェブデザイン」の内容がやはり機能面に偏っているのではないかというご指摘がありました。こちらについても、「修正箇所一覧」の8番に『『見ているとわくわくする』、『都立図書館へ行ったら面白いかもしれない』と感じさせる、すなわち広く人の心に『届く』『伝わる』デザイン』という表現にいたしました。このような形でよいかご確認いただければと思います。

それから、豊岡委員から、9ページの「児童・生徒の学びの支援」ですが、プログラムをつくるに当たっては学校の教師のニーズであったり、子どもたちのニーズであったりといった記述を入れる必要があるのではないかというご指摘がありまして、ごもっともだということで、「修正箇所一覧」の7番に、「その際は、学校はもとより、保護者や地域のニーズを踏まえた内容となるよう留意する」と文言を追加いたしました。

それから、10ページに「司書教諭や学校司書を中心とした学校図書館関係者」という文言があったんですけれども、当然、学校というのは校長先生を初めとしてさまざまな教職員の方々の連携プレーで経営をされておりますので、司書教諭、学校司書と狭く捉えるよりも、もう少し広く捉えたほうがよいだろうと考えまして、項番の6番ですけれども、「校長以下教職員と都立図書館が連携しつつ」というふうに表現を変えました。

次に、小田議長からですけれども、「第IV章 今後に向けて」の最初の文章について、より長期的な、違う観点からもこういう課題があるという形の整理をして、そういった文言にしたほうがうまくつながるのではないかというご指摘がありまして、項番の9番で「別表としてまとめた。」以降の文章を少し修正いたしました。

それから、小田議長の2点目ですが、「また、」以降の文章で、「存在意義（ミッション）」となっていたものがありました。これは「存在意義」と変えました。その上で、ミッションをアレンジするというのはミッションが軽いイメージの言葉遣いだということだったので、それもおっしゃるとおりだと思われましたので、その言葉自体をなくしまして、もう少し対応ができる部分について柔軟な運営というような表現がいいのかなということで、11番、「環境の変化に対応して、サービス・運営を再構築する積極的な姿勢が求められる」

というふうに表示を改めました。

前回の定例会からの修正箇所と、あと1点だけ、「修正箇所一覧」の5番目ですけれども、オープンラーニングのところで、オーストラリアのビクトリア州立図書館の「open2study」という事例を取り上げていました。ところが、この事例がなくなってしまいましたので、削除いたしました。

以上が修正箇所になります。

【小田議長】 最後のところは事例が1つ減ったので、その後の付番を変えて、合計で4つの事例という形に整理したことになるかと思います。

このような形で修正を施して提言案を整えたわけですけれども、各委員、ご覧になりましたらご確認いただけますでしょうか。何か趣旨が違うといったことがないかどうか。また、全体にわたって修正をしたために、かえって文脈が崩れたりしていないかご確認いただけますでしょうか。よろしいでしょうか。

【委員からの発言は特になし】

それでは、この提言案、修正を加えた形のもので確定させていただきます。どうもありがとうございました。これで提言案の「案」を取る形で、最終的な文書が整ったことになります。

それでは、提言が確定いたしましたので、一度事務局のほうに進行をお返しいたします。

【企画経営課長】 皆様、どうもありがとうございました。

それでは、早速でございますけれども、今の確定した提言を議長から館長の西海に手渡していただきたいと思います。

【小田議長】 提言を28期としてまとめました。館長に提言としてお渡しいたします。

【中央図書館長】 ありがとうございます。

(提言手交)

【企画経営課長】 ありがとうございました。

それでは、ただいま提言をいただきましたので、ここで館長の西海からご挨拶を申し上げます。

【中央図書館長】 改めまして、館長の西海でございます。一言ご挨拶をさせていただきます。

協議会委員の皆様方には、この間、熱心なご議論をいただきまして本当にありがとうございました。特に小田議長におかれましては、滞りなく会を進行していただき、また、そ

それぞれの委員の皆様方のご意見を提言に取りまとめていただきまして、ありがとうございます。また、松本副議長におかれましては、各部会の運営、あるいは提言の執筆に関しまして本当に中心的な役割をお務めいただいたところでございます。ありがとうございます。お2人のみならず、委員の皆様方に大変ご尽力いただきましたことを、図書館を代表いたしまして心より御礼申し上げます。ありがとうございます。

ただいまいただきました提言をもとに、中央図書館、多摩図書館の両館が一体となりまして、都民の多様な学びや活動を支えるという役割を果たすために、職員一丸となって新たな取組に挑戦してまいる所存でございます。一旦ここで提言を受け取るということでの会自体は閉まりますけれども、都立図書館につきましては、今後ともご指導、ご支援、ご鞭撻をお願いいたしまして、御礼のご挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございました。

【企画経営課長】 どうもありがとうございました。

それでは、ご案内申し上げましたとおり、せっかくですので、委員の皆様からも一言ずつご挨拶をいただきたいと思っております。名簿順という形よろしいでしょうか。

では、恐縮ですが、笹委員からよろしくお願いいたします。

【笹委員】 皆様、改めまして、こんにちは。私は、27期、28期の2期にわたりまして4年間委員を務めさせていただきました。勤務先がこのすぐそばの三田高校ということもございまして、この委員を務めさせていただくことで、地元の図書館をどのように学校現場として活用させていただくかという視点で関わらせていただくことができたと思っております。

幸い、探究学習に非常に力を入れていく時期にちょうど重なりまして、本校でも知的探究イノベーター推進事業という東京都の指定を受けまして、今年で2年目、生徒が実際に本図書館に来館し、活動をさせていただいております。その活動を実施するに当たって、図書館とは連携を強めさせていただきまして、生徒が来館し、調べ学習に取り組ませていただいたり、折々に情報をいただいたりして、校内での学習に活かせる機会をいただいているなど思っております。

本校と本図書館との連携がこの協議会が考えていた、色々な利用者に門戸を開いて、活用できる図書館をつくっていくというところの1つのモデルになったのではないかなと思っております。これからもご近所ですので、本校の生徒を含め、都民が活用できるような図書館にしていただきたいと思います。

本当に4年間、お世話になりました。ありがとうございました。

【古川委員】 提言を何回か読み返しさせていただきました。非常にわかりやすい内容になっていると思いました。議長の小田先生、また松本先生、事務局の皆様のおかげだと感謝しております。これからも都立図書館と公立の図書館との連携・連動が図られますようよろしくお願いいたします。

別件ですが、本日は企画展を拝見させていただきました。ペルーの衣装を身につけることができるという、体験的な活動をよく工夫されているなど感心いたしました。本当にありがとうございました。以上です。

【内田委員】 私はお隣の業界から来た人間といえますか、日頃は博物館の方々と相手に仕事をしています。地方では非常に人口減少で、来館者が減っているという、博物館の方々の厳しい相談に乗って色々やってきたことがもしここでお役に立てればということで、主に部会で色々な細かい、現場で見聞きしてきたお話をさせていただいたつもりです。また、もともと私は企業側で、ずっと民間企業の人間ですので、観点としては顧客満足と新規開拓という2つに自分の考え方を整理して、お話をさせていただいたつもりです。今、拝見しました提言にも、私が好き勝手申し上げたところをきれいにまとめて取り込んでいただいて、本当にありがとうございました。

また今後ともこういった場でお手伝いできればと思っておりますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

【川原田委員】 川原田でございます。2年間ありがとうございました。私は建築の分野からこの会に出席させていただいて、図書館の専門の皆さんとは少し毛色の違う発言をさせていただいていたのですが、少し変化球的な発言もうまく提言の中にまとめていただきまして、本当にありがとうございます。

206万冊の蔵書というとてもすばらしい資源を持っていらっしゃる図書館が、よりたくさんの方々に使ってもらえるようにということでさまざまな提言をさせていただいたんですけれども、すぐに実行していただけたというところに本当に感動しております。手荷物の持込みが緩和されたり、これは実際にやっていただいたのかわからないんですけども、最近、地域の市区町村立図書館で都立図書館の本をオーダーしたのです。「3週間ぐらいかかりますかね」とおっしゃられたんですけれども、1週間で本が届いたということがありまして、仕事に使えるスピードになっていました。

今後大掛かりにリニューアルされるようなときには、より自由度が増えると思いますの

で、協議会の提言が生かされさらにパワーアップした都立図書館ができてくれるといいなと思いました。ありがとうございました。

【坂口委員】 私も2期4年間、委員を務めさせてもらって、本当に勉強になりました。私は明治大学図書館を定年退職してから全くのフリーになりまして、後ろ盾が何もないもので、逆に何でも物が言えるという立場になりまして、色々なことを言い過ぎたかなとちょっと反省しているんですね。実は僕は今、ムーミン、皆さん知っていますよね。あそこ人間なんです。飯能市立図書館ボランティア友の会で活動している人間で、これからは1人でも多くの方がムーミンの谷に来たついでに図書館のほうまで来てもらうという、広報大使みたいな形で頑張ろうと思っています。

ここの都立図書館に来て学んだことがいっぱいありました。ここは大学図書館と市立図書館の機能を両方あわせ持った、恐らく非常に運営がやりづらいのではないかと。僕自身、大学図書館は42年ですけれども、もうターゲットが決まっているのでやることも決まっています、言われることも決まっていますので、そういう中にいる人間から見ると、こういう公立図書館というのは非常に大変だなと思って、いつも発言を聞いていて皆さんを尊敬しています。

飯能市立図書館の定例会が今週あるのですけれども、ここで出たことを、都立はこんなことをやっていますよ、市立でできることはありますかとかね、とお伝えしています。ここで学んだ地域の活性化、特に飯能市はフィンランド、ムーミンという強みがありますので、地方の図書館がこれから自分のところの強みは何かなと考える材料として、恐らく飯能が1つのモデルかなと思います。

ですから、都立も、都立の強みを皆さん一生懸命考えて4年間、最初に来たときから、今日は館内をチラッと見ましたが、様変わりしていますね。改革が着実に進んでいる。3席ふやした調査研究ルームのところも、入口のすぐ右側、あいているところのスペースを使って、ちょっとでもできることがあったらやろうという気持ちが僕に伝わってきましたので、これからもこれを続けていってほしいと思います。どうもありがとうございました。

【富澤委員】 富澤でございます。私は皆さんのように専門家ではないので、本当に一利用者というか、一都民の代表みたいな形で参加させていただきました。提言案も読ませていただきまして、2年間、色々な立場の方々、色々な専門家の方々、私みたいな人間も発言したことが本当にうまくまとめられていて、ありがとうございました。

都立中央図書館に関しましては、前期のときからこうしたほうがいいんじゃないかと出

た提言ができることは、皆さんおっしゃられていましたけれども、どんどん変わっていているのが本当に感動しまして、すごく可能性を感じました。だから、多分どんどん変わっていきけるし、利用者と図書館の方々がどんどん近くなっていくんじゃないかなというのを非常に強く感じました。

あと、今、フィンランドのムーミンパークの話がありましたけれども、フィンランドのヘルシンキで先日、大きい図書館がオープンしていて、蔵書もちろんですけども、色々なことができる部屋がいっぱいつくられているようでして、3Dプリンターが置いてあったりするそうなんです。私はフィンランドに興味があるので、フェイスブックのフィンランド好きな人たちのコミュニティに入っているのですけれども、そこでフィンランドのヘルシンキに行った人が「図書館に行ってきたよ。こんなにすごかったよ」というやりとりがされていました。その行かれた人たちが図書館好きかどうかはわかりませんが、ヘルシンキが好きとか、フィンランドが好きという気持ち、情報の中で、そういう図書館の話題があったりするんですね。なので、いつか都立中央図書館さんも遠い外国の人にも注目されるような、そんな図書館になってほしいなと思っています。ありがとうございました。

【中井委員】 ありがとうございました。私も初めてこういう都道府県立図書館の図書館協議会というのをさせていただいて、今数えたら、私、5つ図書館協議会の委員をやっています、何かちょっと多いかなと思っています。

なかなか日程が合わずに、クレームを1回言ったことがありまして、どうもすみませんでした。それは、ここへ来て皆さんとお話することがすごく勉強になるので、せっかくだからぜひ参加したいということで、日程が変わったことが何回かあったときに、最初は行けていたのに急に行けなくなったりしたときにちょっとクレームを言ってしまいまして、すみませんでした。そういったこともありまして、私としてはここで皆様とお話しさせていただいたことがすごく勉強になったなと思っています。

ほかの図書館協議会、愛知県図書館でも今委員をさせていただいているのと、岐阜市のメディアコスモスというところですね。そこと、愛知県の瀬戸市と三重県の四日市でやっています。瀬戸市は私が委員長になっているのです。座長になってしまっていて、どうしようかと今思っておりまして、皆様がここでお話しされていたことを参考にしながらさせていただきたいなと思っています。

私も川原田先生と同じように、図書館学ではなく、建築のほうなので、特に私は大学に

行っているものですから、利用者の行動を観察しています。公共図書館、大学図書館、今は学校図書館——小・中一貫校だとか、小学校や中学校の学校図書館の行動観察だとか、アンケート等をとって見えています。

私も不勉強で、都立図書館は公共図書館でも少し特殊な図書館であるということがここへ来て初めてわかりました。地域にある図書館ではなくて、やはり資料を保存されるということがすごく大きな、国立国会図書館に近いようなサービスをされている図書館だろうなと思っています。でも、今、地域の公共図書館は大変全国的に色々なところで建物がつくられていまして、そのときのキーワードに「にぎわい創出」ということが言われています。多分、国交省の補助をみんな使いたがるということもあって、中心市街地につくることが大変多くなっていて、今、そういったものが多くなっています。

じゃ、一方、にぎわいだけがあればいいのかということもありまして、私はそうではなくて、やはり地域の資料だとか、図書館の果たすべき役割というのはあると。特に今、私は愛知県図書館の委員もさせていただいているので、同じように県の役割というのは何だろうと。都立さんは普通の市区町村立図書館さんがやられているサービス自体はされていないので、多分、市民と直接やり取りをするということはあるんでしょうけれども、彼らのようなものはないのだろうなと思いつつ、でも、資料面でのサポートがあるだろうなと思っています。

今、地域の図書館は期待がものすごく大きくて、色々なことをやってほしいというのが図書館に求められていることなんです。今まで「いや、ちょっとそんなのは図書館ではできない」ということなどが、ぜひやってほしいという市民の声として直接上がってきています。ですので、多分これから都立さんもそういった市民の声、利用者の声を聞いていくと、あれしてほしい、これしてほしいというのが多分出てくると思うんですけども、それはやはり引き受けていただきたいなと思っています。そうじゃないと図書館は残っていけないんじゃないかなと思っていますし、サービスをするということが、都立図書館だけで完結しなくてもいいんじゃないかなと今思っています。

ですので、私たちも小学校とか、中学校とか、地域の図書館、大学図書館もひっくるめて調査をさせていただいていると、地域の総力でサポートすればいいと思っているし、そこに住まわれている人たちの本を読むという環境を、小さな子どもから高齢者までちゃんとサポートするんだということで、図書館だけでなくもいいと思います。博物館とか、美術館とか、色々なところと連携してもいいと思うので、そうやってつながって、みんな

でサポートするようなことがこれから求められると思います。ぜひ都立は皆さんのトップランナーとして頑張ってもらいたく、そういった取組も積極的にやっていただきたいなと思います。どうもありがとうございました。

【松本副議長】 松本です。私は今回、副議長という大役を仰せつかりまして、果たしてその任に耐え得るか大いに疑問でしたが、皆様のご協力をいただきまして、この協議会での場もそうですし、部会でもかなりインフォーマルな感じで色々な議論ができました。色々なバックグラウンドをお持ちの方と議論をするというのは私にとっても非常に勉強になりましたし、それがこの提言の中うまく反映できていればいいかなと思っております。

先ほど東京都のトップランナーという話をされていましたが、私も昔は東京都内の市の職員でした。市の職員というのは常に東京都の図書館を見ていて、そして、東京都の図書館はどういう活動をしていくかというのを見ております。恐らくこれは東京都だけではなくて、全国の公共図書館の図書館員もそのように見ていると思います。この提言をぜひ生かしていただいて、よりよい図書館にしていってほしいと思います。どうもありがとうございました。

【小田議長】 それでは、トリを務めさせていただきますが、この2年間、お世話になりました。各委員の皆様には色々ご意見等をいただきまして、ありがとうございます。

こうした議長という役回りをやる時に一番心配なのは、変な意見が出ないといいな、これがまず一番心配なんです。それよりも怖いのは、ありきたりの意見しか出ないというのが怖くて、もっと怖いのは何も意見が出ないということです。今期は、あるいは前期もそうだったのですが、委員の皆様が大変恵まれて、実質的な意見が多数出され、それがこうした提言に結びつきました。部会で充実したやりとりが重ねられてもいます。きちんとした提言になったなど、何度読み返しても納得できる場所となりました。ちょっと自画自賛のようにはなりますが、そう思っています。

何度か非公式の場面では申し上げているのですが、都立図書館は私の人生そのものと寄り添ってきているといつも思っています。最近、実家の八王子に帰ることが多いです。八王子駅から線路沿いをとことこと約30分弱歩いて帰るんですが、そうすると、あるお寺の横を通り過ぎるんですね。そのお寺の境内に東京都立八王子図書館がかつてあった。昭和の30年代から40年代にかけてのことなんです。その後、別なところへ移って、今はもうないんですけれども、そこに差しかかるとふっと足がとまるんですね。ああ、ここにあったな。そういうこれまでの都立図書館の色々な発展があって今日に至っていま

すので、時折そうしたところも振り返っていただきながら今を考えて、そしてまたこれからを見据えていきたいなと思っています。

最後に、1つ失敗したなと思いますのは、今日は提言を渡すということなのでネクタイをちゃんと締めてきたんですが、ムーミン柄のネクタイにしてくればよかったなと（笑）。フィンランドで昔買ったのを思い出して、それだけがちょっと心残りになりました。先ほど富澤さんから3Dプリンターというお話が出ましたけれども、キーワードで言うと、メーカースペースというのが今アメリカなどで、図書館だけではなくて、中井さんのお話のように色々な組織を巻き込んで話題となっています。日本でも取組が幾つか見られ始めていますので、そうしたところもまた視野に入れていくことになるのだろうなと考えております。

この2年間、大変お世話になりました。ちょっと私ごとを申し上げますと、この3月までは青山学院大学の教育人間科学部に所属しておりますが、4月から相模原に開学するコミュニティ人間科学部という、大学として11番目の学部に移籍することになっております。そちらでさらに図書館情報学の研究、あるいはその関係の学生の教育を進めていきたいと思っておりますので、これまで以上に、コミュニティという名前から想像できるように、公立図書館、公共図書館の役割というものを中心にした研究、教育を行いますので、その際にも色々ご支援、ご鞭撻を賜ればと思います。どうもありがとうございました。

【企画経営課長】 皆様、ありがとうございました。今いただいたお話も非常に我々としては参考になるところだと思っておりますので、そういったところを踏まえまして頑張っていきたいと思っております。

お話に関連したところでは、調査研究ルームをつい最近3席増やしたり、提言の中にも述べていただいたんですけれども、特別文庫室というところで貴重資料を持っていますけれども、そこのデータ化、なるべく広く使っていただけるようにという取組を促進していたり、皆様に議論していただいたところを我々もなるべく早く採用していけるように頑張っておりますので、引き続きこれからもよろしくお願ひしたいと思ひます。都立図書館、職員一丸となって頑張っていきたいと思ひますので、引き続きよろしくお願ひしたいと思ひます。

これをもちまして、この28期の協議会を閉会とさせていただきます。皆様、2年間、どうもありがとうございました。

午後3時42分閉会